

英語科

令和5年度 東大和市立第五中学校 授業改善推進プラン 教科名 授業担当者 板倉、佐藤航、玄應、

英語科における指導の重点（身に付けさせたい力） ※学習指導要領に照らし合わせて

- ・コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーション能力を身に付けさせる。
- ・外国語で話したり、書いたりして自分の考えを表現させていく。

	生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な改善策	手だての実施時期	成果検証（2月）
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の活動や発話など積極的に取り組むことができるが、家庭学習習慣がついていないため、学習内容が定着しない。 ・教科書の本文や予め用意された英文を読むことはできるが、即興のやり取りが苦手である。 ・既習単語や文法のドリル活動は得意であるが、それらを活用できる生徒は少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時帯活動で40語の単語活動、4時間毎に小テストを実施することで、家庭学習で覚える習慣をつけさせる。 ・オンライン英会話を活用し、即興のやり取りの訓練を行う。 ・毎時書く活動を取り入れていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・適宜 ・適宜 ・毎回 	
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> ・話す活動は積極的に行うことができる。 ・授業中の発言が多い。 ・英語そのものを苦手とする生徒が限定されてきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭の協力を求めながら家庭学習を徹底させ、宿題を毎回チェックする。 ・復習確認テストを取り入れる。 ・On line を活用してスピーキングテストを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回 ・適宜 ・適宜 	
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> ・話す活動は積極的に行うが、書く活動に関しては苦手意識を感じている生徒が多い。 ・授業中に頑張って発言する生徒は多いが、自発的に家庭で地道に単語や文章を書いて覚える生徒は少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと〔やり取り〕」「話すこと〔発表〕」「書くこと」の5領域について、授業で繰り返し指導を行う。 ・高校入試の過去問などを使い、長文問題の解き方を指導していく。 ・On line を活用してスピーキングテストを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回 ・適宜 ・適宜 	

- 主体的・対話的で深い学びに関連して
- 1年 課題提示の工夫、ペアワークの充実
 - 2年 課題提示の工夫、グループ活動の充実
 - 3年 課題提示の工夫、表現活動（会話・英作文）の充実

- 1人1台端末の活用に関連して
- 1年
 - 2年 } 一対一のOn line 英会話で活用
 - 3年 }